

総領事からの活動報告(2012年5月前半)

平成 24 年 5 月 15 日
在マイアミ日本総領事
川原英一

第七回ラテンアメリカ年次会議

5月11日、マイアミ大学西半球センター主催による中南米地域の政治・経済・貿易見通しについての会議がありました。今年7回目を迎える同会議には、世銀中南米カリブ地域担当副総裁、国連ラ米経済委(ECLAC)ワシントン事務所長、ジェイコブソン 国務省西半球次官補、バルゴ前 USTR 副代表、イリアナ・ロスレーティネン米下院外交委員会委員長、米南方軍付大使、メキシコ・ウルグアイ・チリ・カナダ等の総領事、米国と中南米諸国の大学教授、民間企業、当地マイアミ・ヘラルド紙や中南米プレス関係者など300名を超える方が参集しました。



近年、中南米諸国全体として、経済運営は好調であり、所得水準の向上により新中間所得層が急増したものの、他方、所得格差は依然として大きいこと、中南米地域内で自由貿易を推進するメキシコ、チリなど太平洋同盟諸国とブラジル・アルゼンチンなど貿易制限的措置を講じて国内産業を保護する諸国の相反する動きがみられること、地域の不安定要因として、今年10月のベネズエラ大統領選挙がチャベス大統領の健康悪化の中でどのような展開となるのか、また、ベネズエラとキューバ及びイランとの関係に注目する発言がありました。



イリアナ・ロスレーティネン米下院外交委員長は、最近、漸く米議会が超党派の賛成によりコロンビア、パナマとのFTAが批准されたこと、コロンビアと米国とのFTAが、今月15日から実施されて、コロンビアへの米国産品の輸出の8割が無税となり、フロリダ州からの同国向け輸出が伸びて、雇用創出効果が期待できること、コロンビア産の生花が米国市場向けに空輸される際、同貨物量の96%がマイアミ空港を経由しており、今後活発化する動きへ期待を表明、他方、米国の対キューバ制裁措置の継続を強く支持するとの立場から、フロリダ州がキューバとの取引関係のある民間企業について、フロリダ州の公共事業への参入を排除する新法を州議会で可決し、スコット知事が同法律に署名したことを高く評価する旨語っておられました。また、キューバの民主化がなされる迄は、対キューバ制裁措置は続けるべきとの強い姿勢をアピールされました。

◆マイアミ大学医学部バーンズ教授他との懇談

5月初め、マイアミ大学医学部とパートナー大学である鹿児島大学医学部との良好な関係を長年見て来られたバーンズ教授及び同じく医学部パノフ先生と懇談の機会がありました。

バーンズ教授(写真真ん中)は、1992年に鹿児島大学長とマイアミ大学長の間で医学部パート



ナーシップの覚書が交わされる以前から、鹿児島大学医学部関係者との交流があったこと、92年以降、最初、鹿児島大から2名の医学部生の受け入れから開始し、その後、徐々に医学部生の受入れ人数を増やして現在の活発な交流になったこと、自分(同教授)は、今度の6月の鹿児島訪問を加えると3回目の同大学訪問となること、又、中南米諸国主要大学の医学部とマイアミ大学との間でもパートナー

シップ関係にあり、優秀な中南米の医者の子を受け入れていることを述べておられました。最近のマイアミ大医学部学生は、鹿児島大学の交換医学部生の場合と同様、女性が多数を占めており、男子の多かった昔と大分事情が様変わりしたとも話されていました。

前回、日本を訪問された折、ご家族で鹿児島と宮崎を訪問し、長崎や京都にも行かれた由。今回は、マイアミ大学の同教授のスケジュールが立て込んでいる為、1週間程度の短い訪日となってしまったが、大いに楽しみにしていると述べておられました。また、パノフ先生からは、南フロリダで暮らすユダヤ系米国人コミュニティは約百万人おり、冬場には、NYなどから、スノーバードと呼ばれる人口移動で、さらにユダヤ系人口が増大する、また、その多くが富裕層に属するとの当地事情を語って下さいました。

◆フロリダ国際大学(FIU)現代言語学部長との懇談

5月10日午後、パスケル・ベッセルFIU言語学部チェアーと同学部日本語コースでインストラクターとして活躍されている小村先生、久保田先生と懇談しました。

当方より、先月(4月)にFIUで実施された東日本大震災からの復興写真展の開催に御支援をして頂いたこと、又、大学内で日本語コースへの理解・御支援を頂いていることに感謝を申し上げました。

ベッセル博士(右下写真:左から二人目)は、7年間、同学部のチェアーとして活躍しておられます。大学の日本語・日本文化コースには、現在250名の学生が選択科目として学んでいます。同博士によると、今秋、新たにコロンビア大学から日本人女性准教授が着任予定であり、学生が日本語コースを専攻できるように日本学科設立に向けて着実に、頑張っているとお話がありました。又、中南米移民が多くて、中南米の首都ともいわれるほどにアクセスが良いマイアミの土地柄、大学の言語学部で最も履修生が多いのは西語であること、また、FIUは、中国政府の要請を受けて、青島大学で西語コースを来



年から新設する計画があることなど語っておられました。7～8年前に、中国政府の要請で、ホスピタリティー・観光学科を中国の大学に新設することにFIUが全面的に協力した実績が評価されているようです。

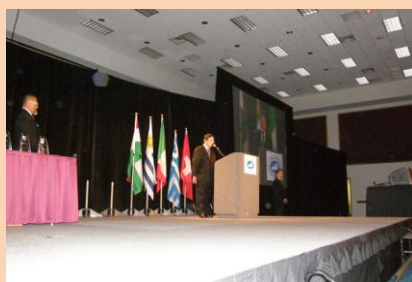
FIUの学生数は、約4万8千名ですが、今後数年間で、6万2千人に増やす計画もあり、元々は地域のための大学であったものが、最近では、地元学生ではなく海外留学生が多数を占める状況になりつつあるとのことでした。大学の財政事情について、5年前は、生徒の学費と州政府予算の割合が1対2であったのですが、現在は、逆の比率になっており、州立大学も民間からの資金拠出に積極的に取り組んでいく必要があるとのことでした。

当方から、JETプログラムによりFIU卒業生も含め、多数の米国の大学を卒業した若者が日本の地方自治体に英語補助教員として派遣されていること、昨年から日本の英語教師が、半年程度、米国の大学で英語教授法の研修を受けていること、これからは、5月1日の日米首脳会談後の共同記者会見で発表された通り、日米両国の次世代交流プログラムとして、絆(きずな)プロジェクトがスタートし、フロリダ州からも日本語を教えている高校から、生徒20数名が日本に招待されること等お話しました。

◆東日本大震災支援 ＜東北各地のスイミング・チームへの義援金＞

マイアミから高速道路を北に 50 分程度の所にあるフォート・エバグレイズ港に近接するプロワード・コンベンションセンターで、5 月 12日(土)午後、第48 回国際水泳の殿堂入りの行事が行われた際、昨年の東日本大震災の影響を受けた東北各地の水泳チームへの義援金の申し出が行われるので、当方が御礼を申し上げに参りました。

この殿堂入りの行事では、長年にわたり国際水泳の世界で御活躍された各国の選手・水泳コーチなどが毎年選ばれて殿堂入りをされております。



今回の義援金は、20 数年間、プロワード郡で高校生など水泳チームのコーチをされている函館出身の丹さん(写真右)やフォート・ローダーデール市国際姉妹都市委員会、民間企業団体の御尽力によるものです。

当方からは、フロリダを始めとして、米国、世界の皆様から多大な支援と連帯の気持ちを表明して頂いており、被災された方々が、大きな元気を頂いており、深く感謝、今後、日本を訪問して東北の復興の姿を直に見て頂きたい、との御挨拶を申し上げます。(了)

